

【我が国の諸問題と政治活動のあり方について】

講師 小野田紀美参議院議員

003 八田 隆士

選挙で当選するためには、「地盤・看板・鞆」の「組織力・知名度・選挙資金」が必要とされている日本で、公募から区議会議員を経て参議院議員になられた小野田先生のお話は、自分の国や地域を良くしたいという情熱はあるが、地盤も看板も鞆も無い多くの塾生にとって大変勇気付けられるお話でした。

また、先生の「成すべき道か優しい道かの選択では成すべき道を選べ、厳しい道だから燃える」というお話や国会議員と地方議員に上下関係はなく、成すべき事を立場立場で、議論しながら成すべき事を実行していくというお話に共感を覚えました。

人手不足・人材不足の観点から、現在外国人労働者の就労規定の見直しに関してのお話では、レポートに書けないお話など自論を交えながらお話して頂きました。現在、外国人労働者は貴重な労働力になってる事実を踏まえ、就労規定の見直しは大切な事だと思います。それに合わせて、①の外国人労働者からの税収のあり方も国会で議論して頂ければと思います

- ①現在日本の税金は、前年度の所得に応じて、税金が決定されます。そのため3年縛りで技術実習に来た外国人は3年後には母国に帰国している為、徴収する事ができず結果2年間しか税金を収めていない事になります。一方日本人は、定年や何らか理由で働けなくなった場合でも税金は発生します。この矛盾の解消していただきたいと思います。

このままでいくと、外国人労働者の割合は年々増加し外国人がいないと日本が成り立たなくなってしまう、今から労働人口を増加させようとしても、あと20年かかります。労働人口を増加させるために少子化対策と一緒に考えて頂きたいと思います。